



2019年3月期

決算説明会資料

2019年5月15日

株式会社アイ・ピー・エス

証券コード 4390

企業理念

OPEN DOOR

私たちは、いまだ誰も突破できていない障壁のある生活に密着した分野で、誰よりも先んじて事業機会を創造し、事業を展開し、産業構造を変え、あるべき社会を実現してまいります。

経営目標

「共生社会の実現」

少子高齢化の中では、移民の受け入れは不可欠であり、多様な価値が調和していく社会の実現を目指します。



1 | Executive Summary

2 | 2019年3月期 決算概況

3 | 通期見込み

4 | Topics

1. Executive Summary

2019年3月期決算概要

売上高：5,780百万円 営業利益：945百万円 営業利益率：16.4%
(前年同期比8.5%増) (前年同期比4.7%増)

2019年3月期の事業推移

1. 海外通信事業の一部案件の工事遅れ/販売単価の下落/追加受注が想定以下と重なり、減収減益。
2. フィリピン国内通信事業は、大口の需要家への提供に努めることで、法人向けブロードバンド事業が早期に黒字化。
3. 医療・美容事業は、マカティでのレーシック手術件数が伸長し、増収増益。
4. 国内通信事業は、コールセンター向けのサービスが拡大し、増収減益。
5. 在留外国人関連事業は、案件はあるも、人手不足でマッチングが進まず、減収・損失。

ビジネス

1. マカティ地区での光ファイバー敷設工事を、MACEA（高層ビルのオーナーの組合）と提携して開始。
2. マニラ首都圏地域にある高架鉄道（LRT2）に光回線を敷設し、SkyCable社に供用開始。
他の鉄道路線への展開を進めている。
3. グローブテレコムと提携して、ビサヤ・ミンダナオ地域のCATV事業者に国際通信回線を提供開始。競争が激化するマニラではなく、地方に収益源を求める。

2 | 2019年3月期 決算概要

【2019年3月期 連結実績】

(単位：百万円)

	2018年3月期 通期実績	2019年3月期			
		通期実績	前年比	通期予想	通期予想達成率
売上高	5,327	5,780	452 (+8.5%)	6,107	94.6%
営業利益	902	945	42 (+4.7%)	921	102.6%
経常利益	819	1,001	182 (+22.3%)	906	110.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	480	588	107 (+22.4%)	555	106.0%

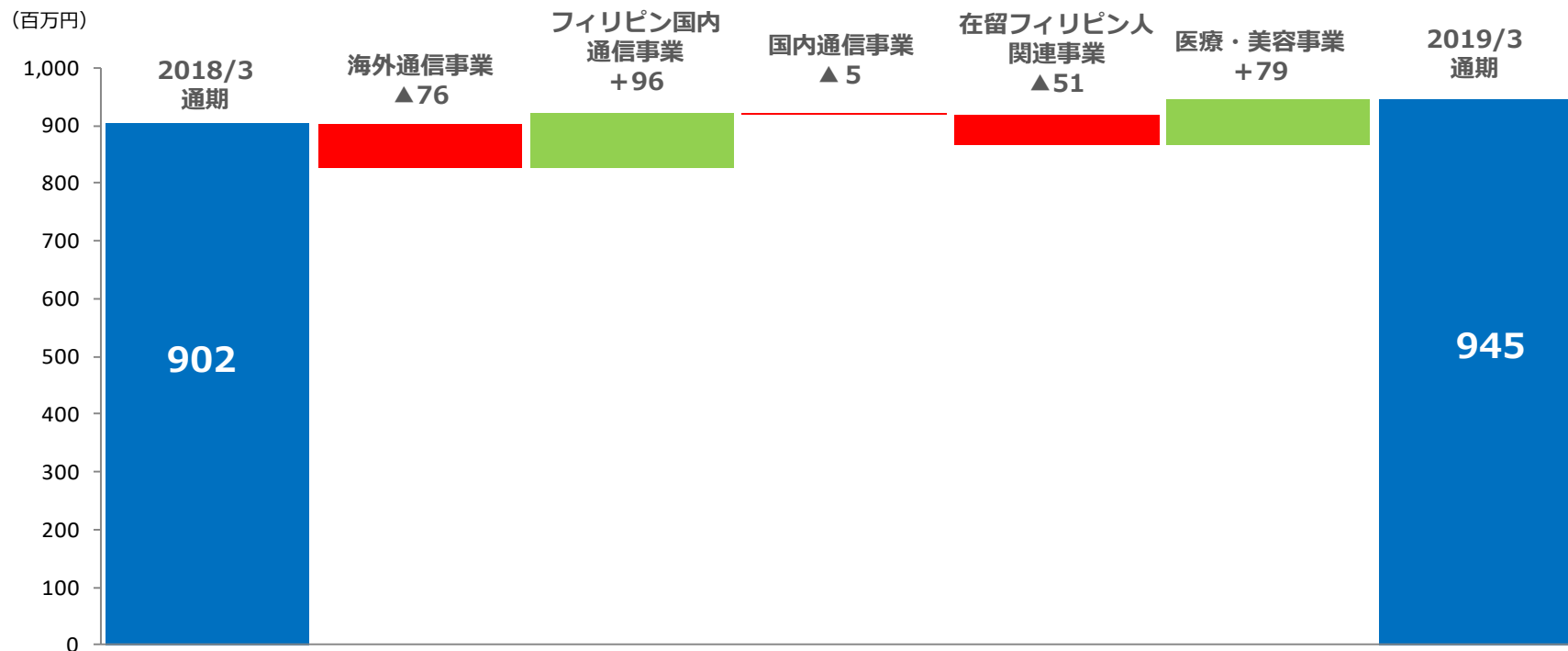
2019年3月期 通期実績分析

- 売上高：フィリピン国内通信事業が本格的に事業を開始したことにより、増収
- 営業利益：フィリピン国内通信事業が本格始動により損益が改善し、医療・美容事業の伸長もあり増益
- 経常利益：円安による営業外収益に為替差益73百万円を計上し、増益
- 親会社株主に帰属する当期純利益：円安による為替差益などにより増益

(2) 2019年3月期 営業利益増減 (前年比)



フィリピン国内通信事業と医療・美容事業が利益拡大を牽引。

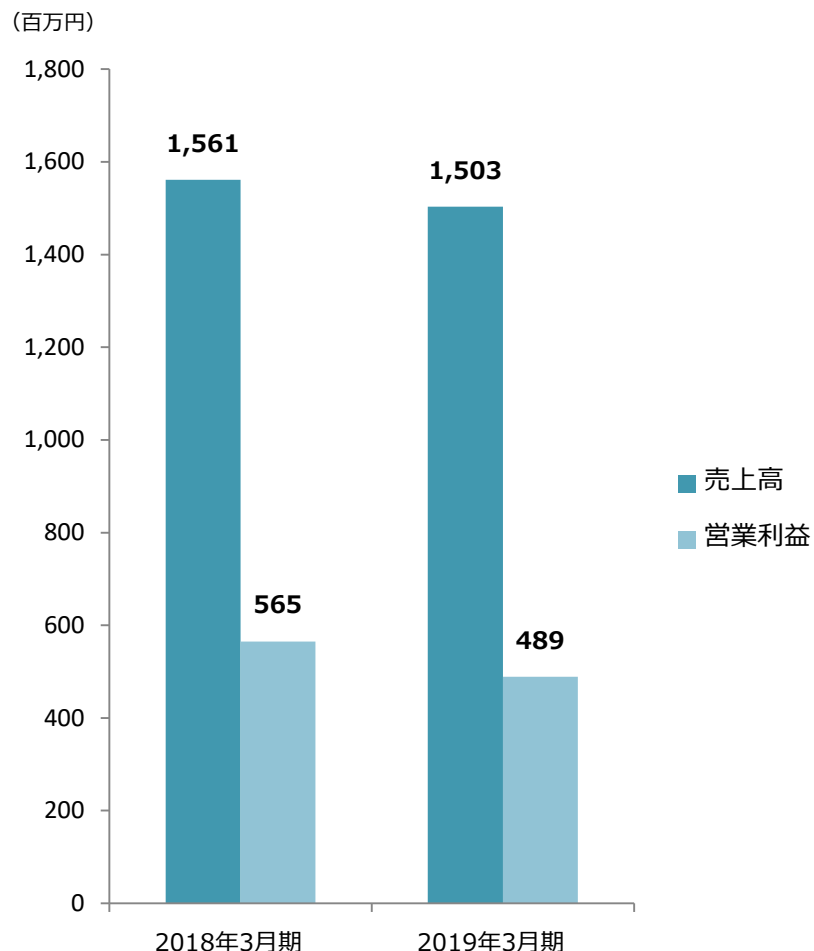


(3) 事業セグメント別経営成績



(単位：百万円)

		2018年3月期	2019年3月期	前年比	増減率
海外通信事業	売上高	1,561	1,503	▲ 58	-3.7%
	営業利益	565	489	▲ 76	-13.5%
フィリピン国内通信事業	売上高	73	354	280	379.5%
	営業利益	▲ 108	▲ 12	96	-
国内通信事業	売上高	2,741	2,895	153	5.6%
	営業利益	274	268	▲ 5	-1.9%
在留フィリピン人関連事業	売上高	365	264	▲ 101	-27.7%
	営業利益	11	▲ 40	▲ 51	-
医療・美容事業	売上高	585	762	177	30.4%
	営業利益	160	240	79	49.7%
合計	売上高	5,327	5,780	452	8.5%
	営業利益	902	945	42	4.7%



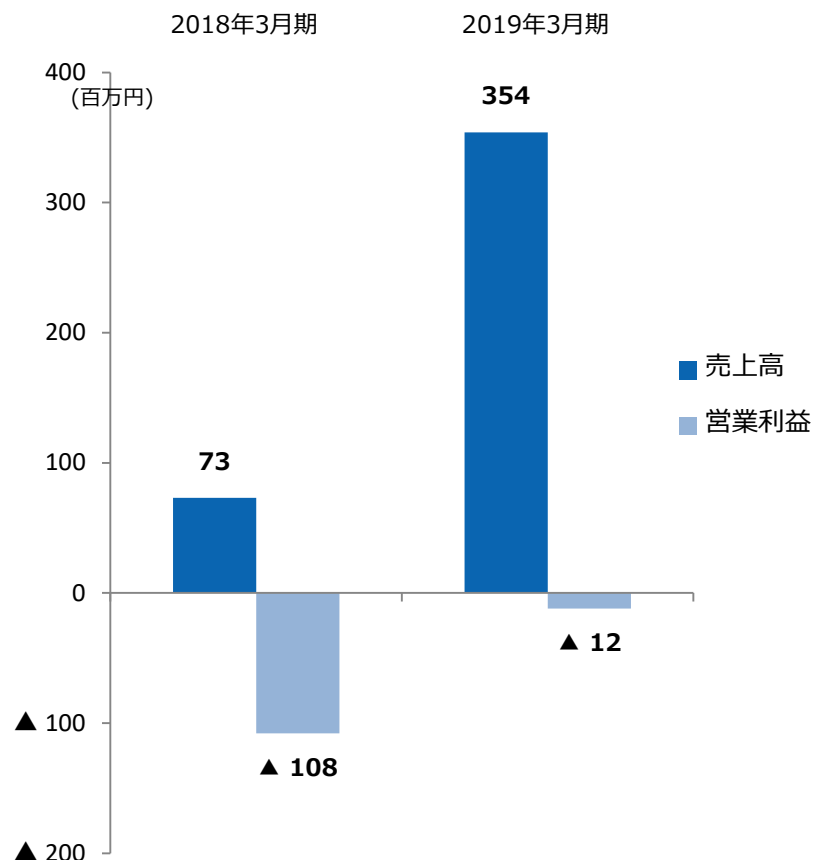
供給は増加したものの、単価の下落が想定上で、減収減益

フィリピン国内ケーブルテレビ会社の旺盛なデータ需要に応え、国際通信回線の販売を積極的に推進。

ただ当社の市場であるマニラ地区は、すべてのケーブルテレビ局と取引しており、取引社数は増やしようがなく、通信技術の発達による値下げの影響が大きい。

地方のCATV事業者への取引拡大を図ったが、通信機器などの新規設置が必要で、納品に時間がかかり仕掛案件増加している。

今後は、地方でも自社回線を引いて、案件獲得を目指す。(後述)



マニラ首都圏法人向けインターネット接続サービスが順調に拡大

ただ法人向けブロードバンドサービス以外の先行投資費用や、事業部間の費用の付け替えのため、4Qが赤字になり損失となった。

なお、このセグメント事業を行う、InifiniVAN社の損益は2018年12月期において黒字化。

参考

InifiniVAN社の収支（2018年12月期）

	PHP	JPY
売上	351,471,693	738,090,555
税引前利益	101,210,540	212,542,134
純利益	84,255,316	176,936,164

LRT 2のIRU取引が12月末に完了し、収益を認識したことによる。

第4Qの収入・収益悪化要因

■法人向けインターネット接続サービス

- ・法人向けサービス貸倒引当金 1,185千ペソ
- ・その他 1,134千ペソ

■事業者向けサービス

- ・国内バックボーン回線敷設に伴い生じた費用など、一括で計上したもの 6,812千ペソ

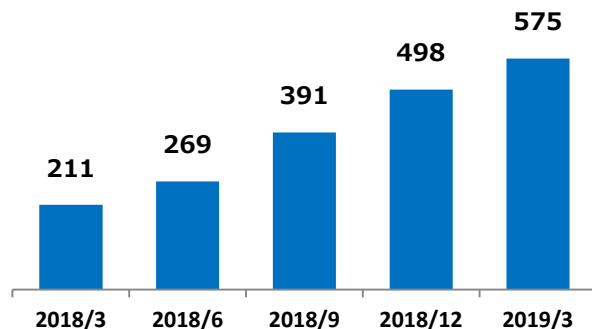
合計 9,131千ペソ (1971万円 1ペソ=2.1円)

セグメントでの通期黒字を想定していたが、回線敷設に伴う先行するコストが発生して、12月に計上が集中したため、赤字であった。

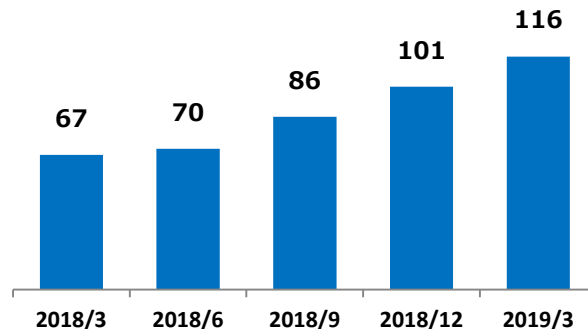
あとこのセグメントに月100万円程度の赤字となるシートリースサービスがあり、去年の2Qから大口客の解約があり赤字になって以来、収益に悪影響を及ぼしている。

2019年3月期時点開通件数

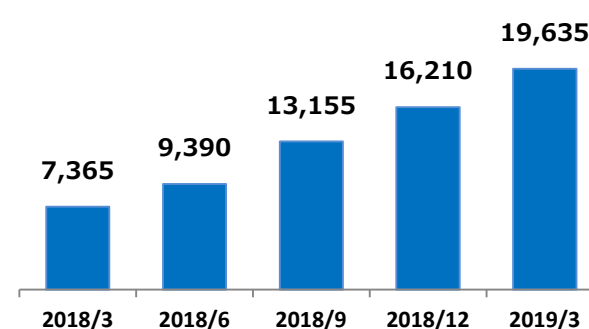
法人顧客数 (単位：社)

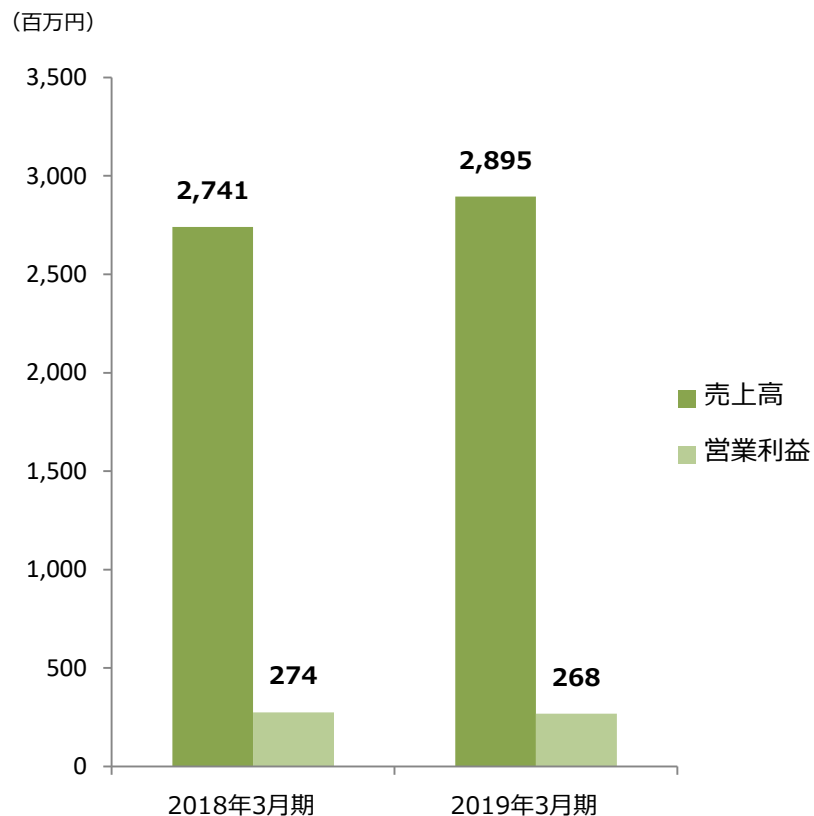


ビル数 (単位：棟)



開通済み帯域量 (単位：mbps)



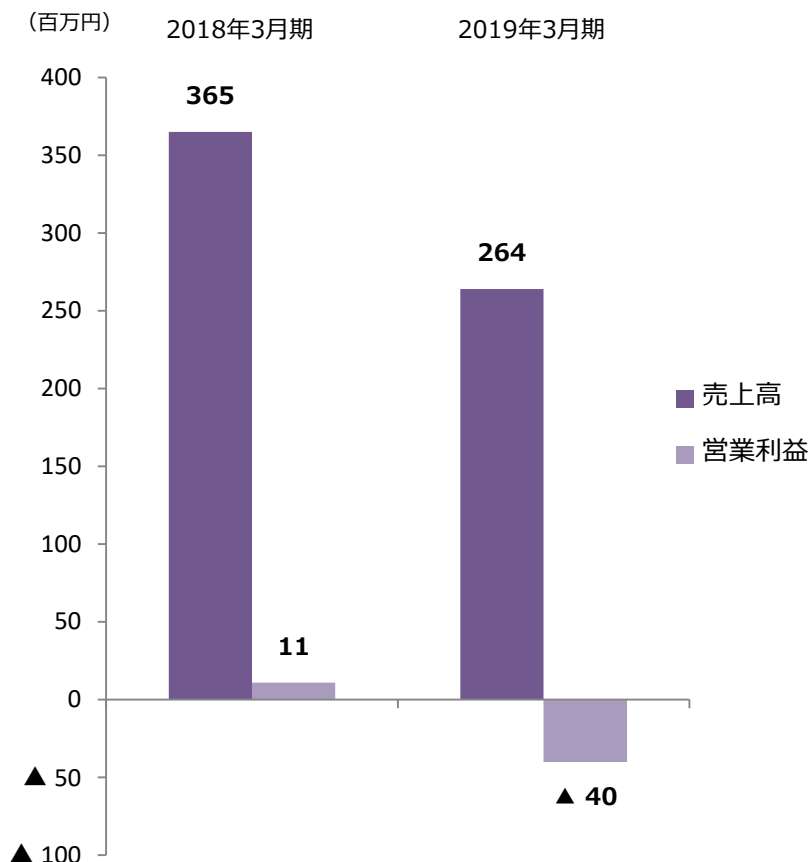


コールセンターシステム、秒課金サービス等が好調に推移

2018年2月に、MVNO事業者向け通話サービスの大口顧客が、他社に事業譲渡を行うという大幅な減収・減益要因があった。

ただコールセンターシステムAmeyoJのライセンス料の伸長や、秒課金サービスなどのトラフィック増加に伴い、事業は好調を保持。

今後も、市場環境の変化に応じ、新規顧客開拓を進めていく。

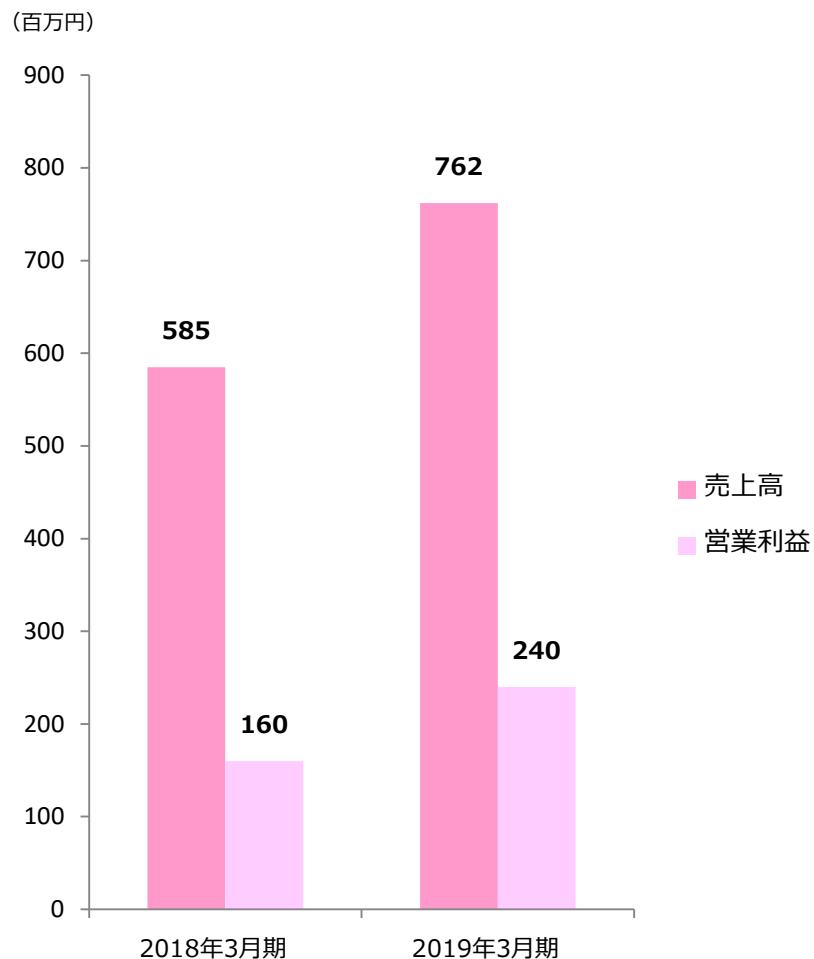


厳しい採用環境の状況が業績にも影響

厳しい求人環境の影響を受け、介護中心とした在留フィリピン人向けの人材派遣事業が伸び悩んだ。

ジョブフェア（集団就職面接会）の強化などの新展開を進め、テコ入れを図る。

旺盛な人材需要に対して、人材を派遣・紹介するための体制の再構築中。



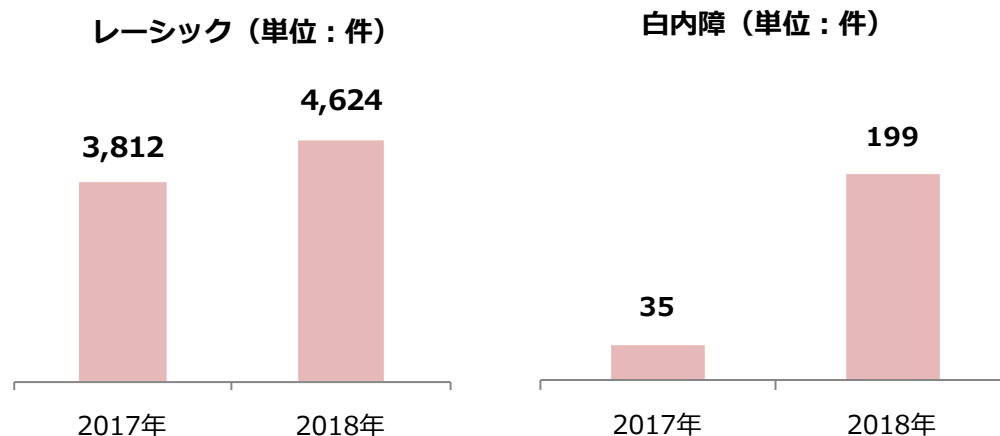
レーシック施術が牽引役となり、好調に推移

インフルエンサーとタイアップしたSNSマーケティングなど、富裕層に向けた積極的なデジタルマーケティングを行ったことにより、レーシック施術が好調に推移した。

また、2018年1月より白内障治療を開始し、新たな顧客の取り込みを行っている。

今後は、新たな医療機器の設備を増強し、患者数の増加に対応する。

施術件数推移



(4) 財務状態



連結貸借対照表 (サマリー)

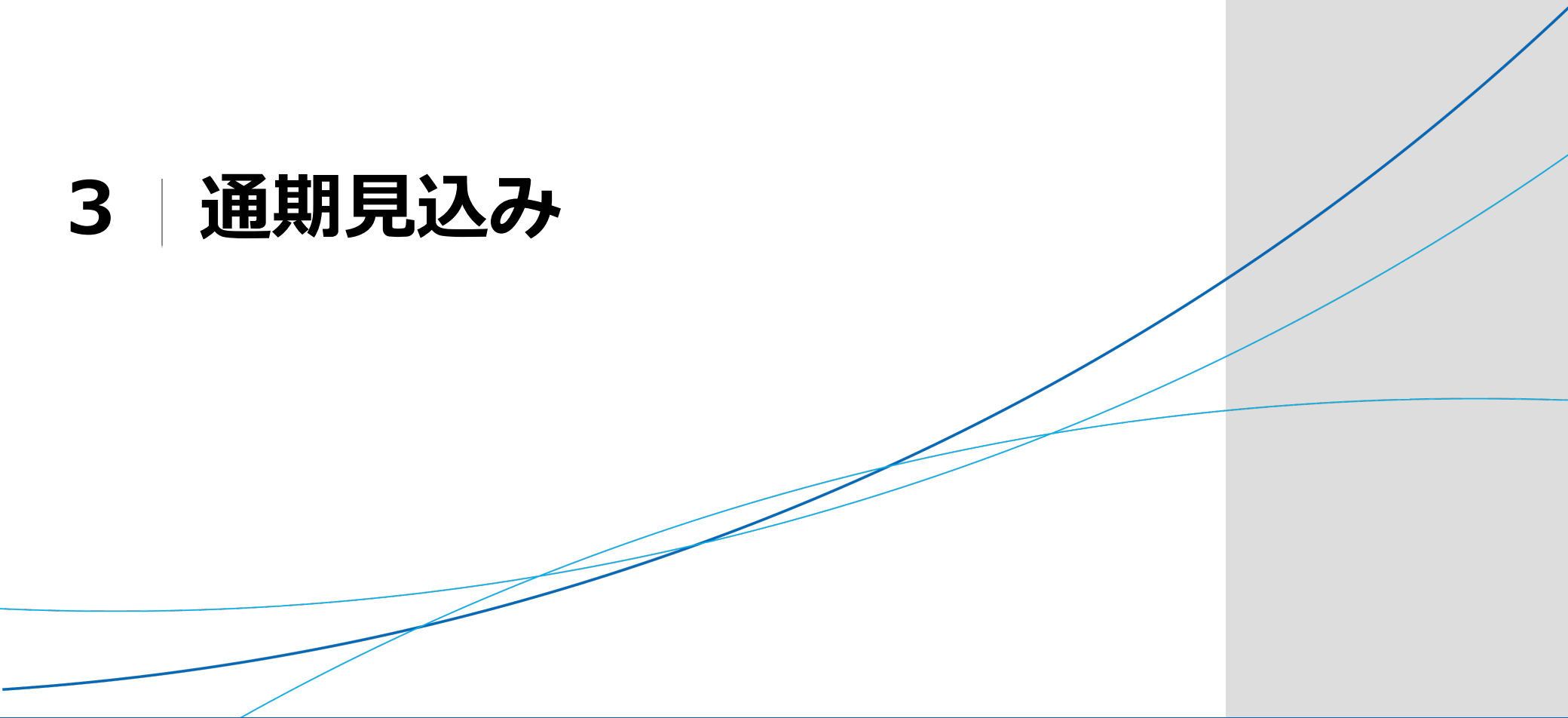
(単位：百万円)

資産の部				負債・純資産の部			
	2018年3月期末	2019年3月期末	増減		2018年3月期末	2019年3月期末	増減
流動資産	2,936	5,142	2,205	流動負債	1,827	2,306	479
現金及び預金	1,410	2,512	1,101	買掛金	410	406	▲3
売掛金	614	1,011	396	借入金・社債	387	300	▲87
リース投資資産	608	1,247	638	その他	1,030	1,600	570
その他	302	371	68	固定負債	982	711	▲271
				負債合計	2,810	3,018	207
固定資産	1,308	1,603	294				
有形固定資産	714	868	154	純資産	1,435	3,728	2,292
無形固定資産	108	198	89	株主資本	1,236	3,170	1,934
投資その他資産	485	536	50	累積包括利益	19	▲45	▲64
				非支配株主持分	179	603	423
資産合計	4,245	6,746	2,500	負債・純資産合計	4,245	6,746	2,500

注記

- 現金及び預金の増加は、東京証券取引所マザーズ市場上場時の公募資金増資やオーバーアロットメントによる第三者割当増資等による。
- 純資産増加は、上場時の増資とストックオプション行使により、資本金と資本準備金が増加したこと、当連結会計年度における親会社株主に帰属する四半期純利益の増加に伴い、利益剰余金が増加したことによる。

3 | 通期見込み



(1) 2020年3月期 業績予想



(単位：百万円)

	2019年3月期 通期実績	2020年3月期	
		通期予想	前年実績比
売上高	5,780	7,000	1,219 (+21.1%)
営業利益	945	1,200	254 (+26.9%)
経常利益	1,001	1,190	188 (+18.8%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	588	640	51 (+8.8%)

通期予想の概要

- 売上は70億円、営業利益は12億円を計画。
- 海外通信事業では、ミンダナオ島などでの地方案件の積極的な獲得を計画。
- フィリピン国内通信事業では、法人向けインターネット接続サービスの安定的な拡大等、積極的な投資を計画。
- 国内通信事業では、引き続きコールセンター向けサービスの拡大を計画。
- 在留フィリピン人関連事業では、旺盛な人材需要に対応した体制の再構築中。
- 医療・美容事業では、引き続きレーシックの拡大を計画。
- 長期の目標である売上200億円/経常利益50億円は、5年間での実現を目指す。
- 想定為替レートは、105円

(2) 海外通信事業見込み



	2018/3 (実)	2019/3 (実)	2020/3 (予)
売上	1,561	1,503	1,565
セグメント利益	565	489	540

前提

■ 環境

通信回線の単価の下落は続くが、限定的。

ただ家庭用ブロードバンド市場は拡大が続く。(競合他社の家庭用市場の売上は4割増)

市場拡大の恩恵をCATV事業者が得ることを通じて、当社も間接的に拡大可能。

競争力あるサービス構築の支援を通じて、収益を拡大させる。

■ 2019年3月期

売上計上時期を満了する回線について、追加の売上が差分を埋めることができなかった。**(高収益案件の終了)**

提携事業者の回線を使って、地方で販売することを計画したが、回線設備がないことが多く、売上計上まで至らなかった案件が多く誤算であったこと。

■ 2020年3月期

今期ミンダナオで、InfiniVAN社と地元のCATV事業者が協同して、回線を敷設。

ミンダナオ各地からダバオを経由して、インターネットと接続するルートを構築。**4Qから利益貢献**の予定。

SkyCable社へ納める通信サービス案件(LRT-2号線)については、InfiniVAN社より代理店手数料を得る予定。

その後もミンダナオ内での帯域の受注とマニラの品質向上に伴う帯域の受注で成長を予定。

(3) フィリピン国内通信事業見込



	2018/3 (実)	2019/3 (実)	2020/3 (予)
売上	73	354	1,010
セグメント利益	▲108	▲12	130

前提

- 月間2G (4万ドル) の純増を目標に、事業を拡大中 (直近実績1.2G)
- CBD地区の回線、合計80kmのうち、8Kmが提供可能になり、ビルと接続している。
- 今後3年間で、この72kmを開通させ、残り4年間で1500ビルへのサービス提供を実現する。
- LRT-2の光ファイバーIRUの収益が通期で寄与。他にも1つ鉄道回線敷設の収入を下期に想定。
- ただ地方の回線・鉄道回線を敷設するキャリア部門の費用もかさみ、当初想定よりも、費用が計上される計画。

(4) 国内通信事業見込

	2018/3 (実)	2019/3 (実)	2020/3 (予)
売上	2,741	2,895	3,190
セグメント利益	274	268	270

前提

- 秒課金（大口需要家向け電話サービス）などのコールセンター向けソリューションの拡大。
- 3月に開始したクラウドサービスなど、通信サービスの周辺に位置するサービスの多角化を進める。

(5) 在留フィリピン人関連事業見込

	2018/3 (実)	2019/3 (実)	2020/3 (予)
売上	365	264	400
セグメント利益	11	▲40	0

前提

- 人材需要は旺盛であり、登録者リストの洗い出しなどを通じて、人材事業を再構築。
- ジョブフェアを年6回にする。他の出身国の方も含めた、フェアのスペックの拡充を進める。
- 入国管理法改正に対応した受け入れ業者の登録を目指す。
将来は、介護事業者と提携して、持続性が認められる介護事業の立ち上げを図っている。

(5) 医療・美容事業見込

	2018/3 (実)	2019/3 (実)	2020/3 (予)
売上	585	762	835
セグメント利益	100	240	260

前提

- マーケティングの効果が浸透。
- 提携する保険会社数を拡大し、顧客開拓方法を充実させる。
- 他の医療分野への拡大。
- ここからさらに売り上げを積み上げるため、第3番目の拠点をつくることを検討。

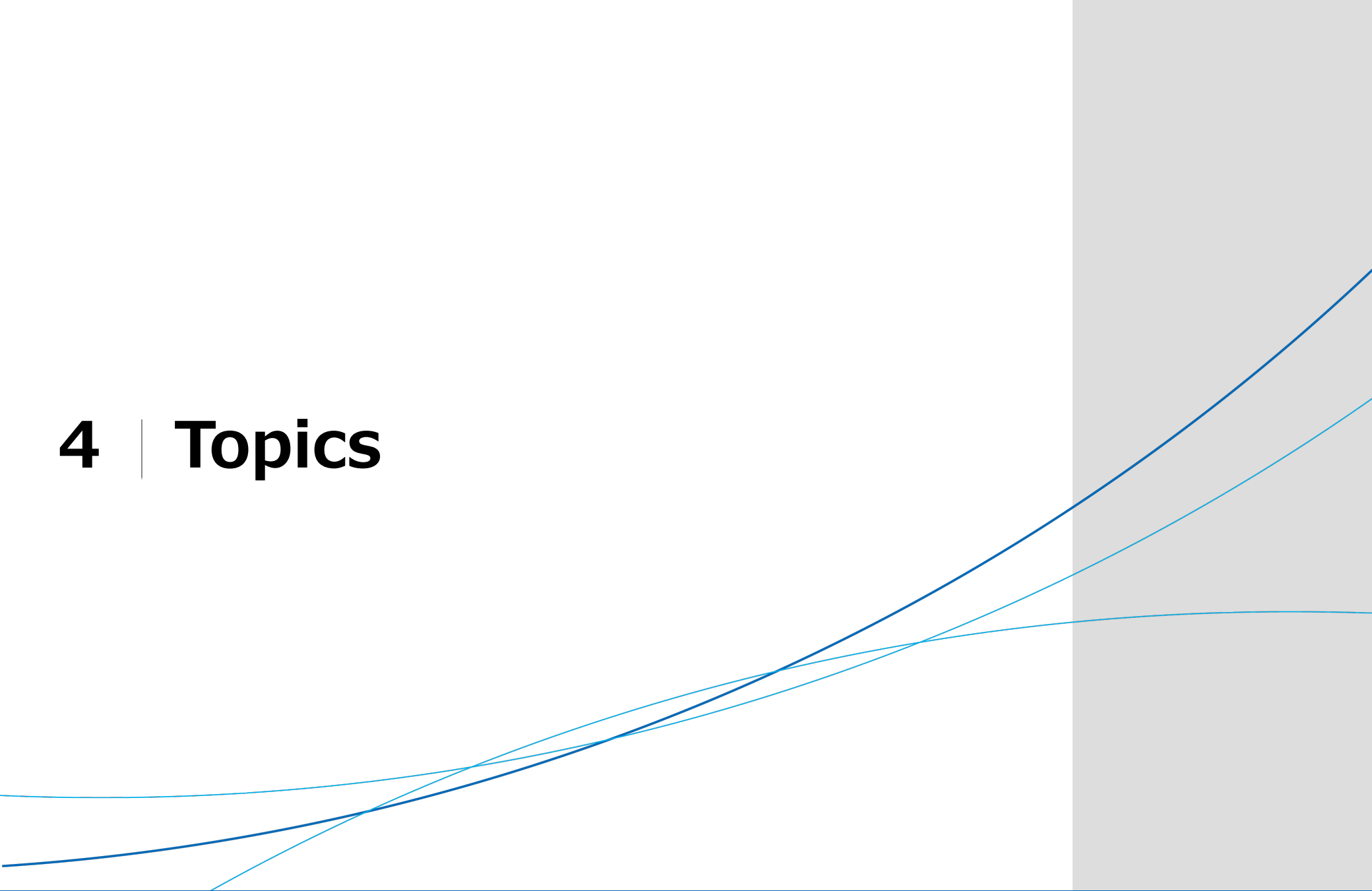
(7) 2020年3月期 セグメント別業績予想



(単位：百万円)

セグメント	2019年3月期	2020年3月期予想	前年比	
			増減	増減率
売上高	5,780	7,000	1,219	21.1%
海外通信事業	1,503	1,565	61	4.1%
フィリピン国内通信事業	354	1,010	655	184.9%
国内通信事業	2,895	3,190	294	10.2%
在留フィリピン人関連事業	264	400	135	51.5%
医療・美容事業	762	835	72	9.5%
営業利益	945	1,200	254	26.9%
海外通信事業	489	540	50	10.3%
フィリピン国内通信事業	▲ 12	130	142	—
国内通信事業	268	270	1	0.4%
在留フィリピン人関連事業	▲ 40	0	40	—
医療・美容事業	240	260	19	8.2%
営業利益率	16.4%	17.1%	—	—
海外通信事業	32.6%	34.5%	—	—
フィリピン国内通信事業	—	12.9%	—	—
国内通信事業	9.3%	8.5%	—	—
在留フィリピン人関連事業	—	—	—	—
医療・美容事業	31.5%	31.1%	—	—

4 | Topics



1. 契約事業者数推移

	2017 ・4Q	2018 ・1Q	2018 ・2Q	2018 ・3Q	2018 ・4Q
マニラ首都圏・マニラ郊外	17	17	17	17	17
それ以外	3	3	3	7	7
合計	20	20	20	24	24

2. 第4Qのビサヤ・ミンダナオ地域の実績

タンタグ（ミンダナオ）回線手配中

ダバオ（ミンダナオ）お客様都合キャンセル

イロイロ（ビサヤ）回線手配中

セブ（ビサヤ）回線手配中

コタバト（ミンダナオ）5月回線開通予定

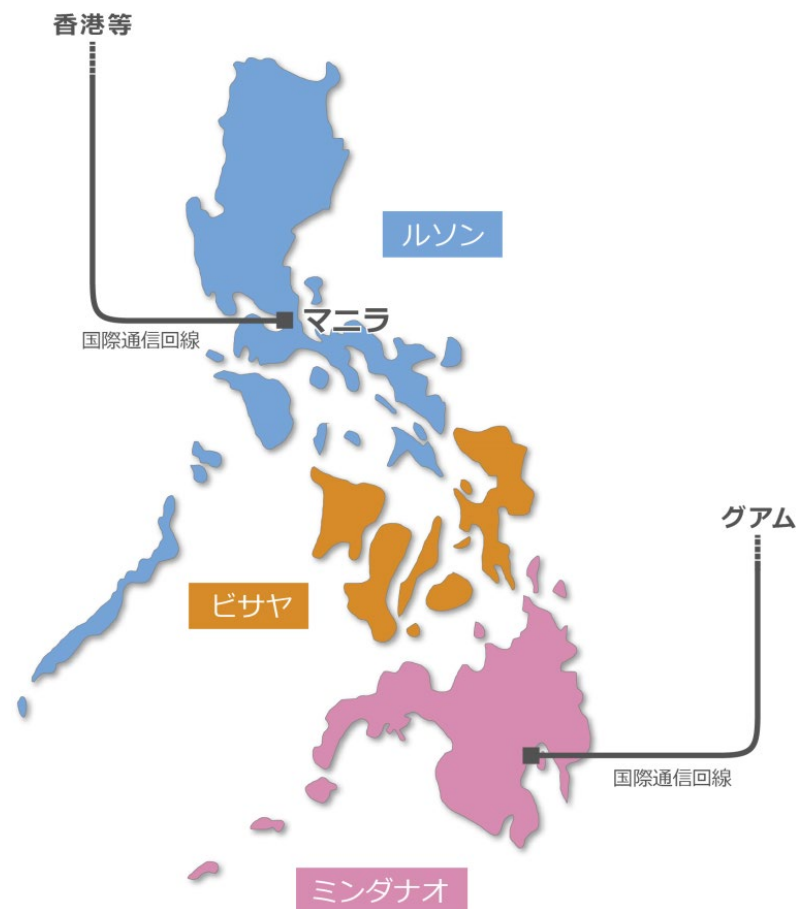
ドウマゲッティ（ビサヤ）回線手配中

セントジョセフ（ルソン）契約済 4月サービス開始済

3. 第1Qの地方案件の計画

ルソン島2か所とミンダナオ島1か所で、開通に向けて準備中。

提携事業者回線から、当社グループでの敷設に切り替え、取引事業者追加を計画



2019年4月 InfiniVAN社が、ミンダナオ島内にあるCATV事業者と提携。
ミンダナオ島内主要都市とダバオを結ぶ回線を共同で建設することで合意。機器資材を発注。



工事区間距離：約2300キロメートル

顧客対象：沿線にあるCATV事業者は、130社

時期：2019年中の開通を計画

趣旨：地方の案件は、提携事業者の既存の回線・通信機器とも、想定以上に不十分。需要はあっても、他社任せにしておく、開通時期が見えないケースが多かったこと。

本書には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。

別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。

当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。

当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。

《IRに関するお問い合わせ先》

株式会社 アイ・ピー・エス
〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1
東劇ビル8階

TEL: 03-3549-7719 FAX: 03-3545-7331